

< 豊明市特別職報酬審議会（第2回）議事録 >

1 日 時

平成 18 年 1 月 24 日（火）

午後 1 時 20 分から午後 2 時 20 分まで

2 場 所

豊明市役所 東館 3 階 会議室 10

3 出席者

委 員：9 名（相羽幹夫、伊藤幸雄、加藤和治、加藤久武、鈴木信子、鈴木正人、都築和男、遠山仁照、内藤昌裕）

事務局：企画部長、人事秘書課長、人事秘書課長補佐（人事担当）、人事・給与担当係長、矢野主査

4 欠席者

委 員：1 名（木村文柄）

5 会長あいさつ

ただいまの出席委員は 9 名で、定足数に達していますので本審議会を再開します。

6 審 議

（会 長） 追加資料について、事務局の説明を求めます。

（事務局） 資料 5 に基づき説明をなす。

（会 長） 各委員から何かご質問はありますか？

（委 員） 今回の資料の給料月額は、調整手当を含まない額か。

（事務局） はい。

他に質問なし

（会 長） それでは本審議会としての意見を取りまとめたい。各委員のお考え、ご意見は。

（委 員） 調整手当はつけていないとのことだが、実際の支給額で言うと他市との比較として低い。今の時代引き上げるのは厳しいが、据え置きではないかと思う。

（委 員） 4 月から第 4 次総合計画がスタートするが、財政状況は厳

しい。心情的には思うところもあるが、据え置きで我慢してもらう方向か。議員報酬は、定数問題が3月議会で検討されるようなので、今回は据え置き。結果を受けて来年度検討してはどうか。

(委員) 据え置き。今回触るのは難しいと思う。

(委員) 資料2の2ページ、人口及び予算規模の順位と比べて、調整手当を含む市長給料月額の前位が27番目というのは低い。やはり心情として、市長給料月額は100万円を超えさせたい。ただ、今どき引き上げるのは時代への逆行ともいえ、据え置きもやむを得ないと考ええる。

(委員) 先の委員とほぼ同じ意見です。財政的なことを考えて、据え置きで。

(委員) 据え置きが妥当と思う。

(委員) 据え置きでよいと思う。

(委員) 賃上げの民間企業もあり、額を調整すべきかとも思ったが、昨日の名古屋市報酬審の引き下げ答申発表を見ても難しいところ。特別職報酬に係る住民一人当たりの額について県内各市の偏差値を算定してみたところ、豊明市は中心より少し悪い位置にあるが、全体的な比較で見ると、それほど悪いわけではない。もし議員定数等が変われば、その結果を踏まえて検討する必要も出てくる。今回は据え置き。

(会長) 綿密な資料検討の結果、本市の現状は中の中下かなというところでしょうか。各委員の意見をお聞きした結果、据え置きという結論であると見受けまゝ。本審議会として据え置きと決定してよろしいか。

(委員) 事務局は、本日欠席の委員の意見は聞いているか。

(事務局) 聞いておりません。

(委員) それならば、異議はありません。

全出席委員異議なし

(会長) 異議なしと認め、本審議会として据え置きの結論で決まゝ。答申書(案)ができるまで休憩とします。

(休憩 13:45~14:00)

(会 長) 答申書(案)ができましたので事務局に朗読させます。

(事務局) 答申書(案)を朗読。

(会 長) この(案)について、ご異議はありませんか。

全出席委員異議なし

(会 長) 異議なしと認め、これで答申と決めます。それでは、答申書の準備ができるまで休憩とします。

(休憩 14:05~14:10)

(会 長) これより市長の入室を求めます。

市長入室

7 答申書手交

会長より市長へ答申書を朗読のうえ手交。

8 市長あいさつ

長時間にわたる慎重審議のうえの答申ありがとうございました。本市の財政状況は厳しく、当初予算案も前年比で約11億円減の見込みです。景気は持ち直しの感があるというが、地方にとっては厳しい状況が実感としてあります。切り詰めるべき経費は切り詰めて、市民に還元するよう努めます。

9 会長あいさつ

2回にわたり慎重な審議をありがとうございました。皆様のご協力で、滞りなく進行することができました。これをもちまして、豊明市特別職報酬審議会を閉会します。

午後2時20分閉会